

OS01-2 医療現場での課題：若手薬剤師の立場から

○小林 瑞季¹, 寺門 浩之¹

¹国立国際医療研セ病院薬

平成 28 年に日本薬学会は「男女共同参画社会づくり宣言」を発信し、性別年齢を問わず、すべての人が対等な立場で個性と能力を十分に発揮し、自ら希望に沿った形で活躍できる男女共同参画社会を実現することを宣言している。

現在薬剤師は高い臨床能力が求められており、薬物療法に関する幅広い知識だけでなく、専門領域での知識・経験を活かし、最適な薬物療法を患者へ提供するための貢献や研究活動が期待されている。このような期待を果たすためには一定以上の経験年数と、専門薬剤師・認定薬剤師の取得を目指すことが必要になると考えるが、その取得・更新のためには、関連業務に継続して従事し、かつ単位の取得が必須である。一方で自己啓発や家庭での役割を果たすために生活の時間も重要であり、それによってもたらされる豊かな人間性は薬剤師の資質向上において貴重なものとなる。しかし出産、育児、介護のために現場を離れ、復帰した後に活躍できるかどうかは若手薬剤師がキャリアプランを考える上で大きな不安となる。演者は 6 年制薬学部卒業後、病院薬剤師として勤務し 3 年目である。本講演では、臨床現場で勤務する若手薬剤師が自身のキャリアを発展させ、かつ生活を充実させるために何が課題となり、どのように解決していくべきか、演者自身の経験や考えを一例として検討したい。